

## 第23回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）

日時 平成27年12月17日(木) 13時30分～

### 1. 連携手帳の現状と問題点

- ・運用している冊数 約4700部 在庫 約300部あり
- ・今後の手帳委員会のあり方について 「むすびあい手帳」への移行に伴い、新潟市ではどのように会議が開催されるのか。今後の秋葉区の手帳委員会のあり方について検討が必要である。

### 2. 連携手帳の発展的利用

- ・摂食嚥下機能評価システムについて 摂食嚥下機能評価・指導シートは新津地域医療福祉連携運営委員会の手帳部会で内容を検討していく。退院後、在宅、施設等への連携手帳として連携手帳の活用を行う。
- ・クリニカルパスについて 癌・骨折・認知症等、疾患ごとに作成されているのが現状。一つにまとめられると活用しやすいのではと意見あり。

### 3. 新潟市医師会「在宅医療IT連携事業」の動き

- ・新潟市内で使用している病院、開業医のアンケートにて良い評価を得ている。
- ・秋葉区にて実施を想定した場合、約25台IT端末が必要である。
- ・今後の「在宅医療IT連携事業」の動きとして、H28年度開始を目指して検討が行われる。

### 4. その他

次回手帳委員会  
平成27年 2月18日（木）午後1時30分から  
新津医療センター病院大会議室

第23回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）

平成27年12月17日

1. 連携手帳の現状と問題点

2. 連携手帳の発展的利用

3. 新潟市医師会「在宅医療 IT連携事業」の動き

4. その他

次回手帳委員会

平成28年2月18日（木）午後1時30分から

新津医療センター病院大会議室

## 「地域連携手帳」 現況報告と今後のあり方

地域連携手帳委員会

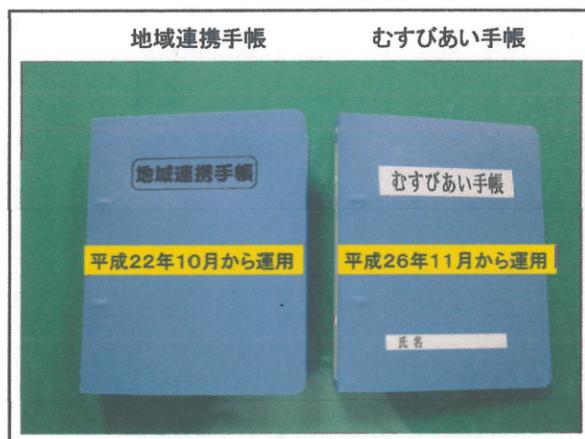
平成27年11月13日  
第13回地域連携協議会報告

## 「地域連携手帳」 今後の運用について

- ・今後の手帳の増刷をどうするか？
  - ・新潟市「むすびあい手帳」との関係は？
  - ・手帳の地域性をどう生かすか？  
(例)栄養、嚥下機能、リハビリなど

### 手帳委員会における検討事項

- ・「地域連携手帳」の運用に関する検討
  - ・「地域連携手帳」の内容に関する検討
  - ・新津「まちなか活性化」事業における「食と栄養の実態調査」(新潟薬科大学)への対応; 内容を検討の上配慮していく  
  - ・「地域連携手帳」の普及状況:  
    約4700部  
    在庫約300部



新潟市「むすびあい手帳」: ホームページ

## 新潟市「むすびあい手帳」:市民向け広報



**新潟市むすびあい手帳配布状況と普及・活用の拡大について**

平成27年11月  
新潟市福祉基盤包括ケア推進課調べ

**<むすびあい手帳の普及・活用の拡大について>**

- 平成28年11月に市報にいがたおよび市HPで周知。市医師会会員・歯科医師会・居宅介護支援事業所へ活用について協力を依頼。
- 平成27年8月に医師から「むすびあい手帳」の配布や地域包括支援センターの紹介をしたいとの意見を受け、平成27年10月市医師会会員へ再度の周知と配布について協力を依頼。
- 平成27年度認知症初期集中支援事業をモデル実施し、今後医師・介護の連携ツールとして活用していく予定。
- 平成27年8月に実施した居宅介護支援事業所と地域包括支援センターへのアンケート結果を基に、配布と活用について意見を予定。

**<配布状況>**

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	合計
平成26年度	191	850	876	901	67	322	365	399	3,871
平成27年度(4月~9月)	3	1	14	32	0	6	1	8	65

\* 平成26年8月から江南区を除いた区域でのモデル的配布分は除く。

### 新潟市「むすびあい手帳」への移行

- 平成27年10月15日開催の第22回手帳委員会で移行を決定
- 平成28年度から移行実施
- 平成28年度以後、「地域連携手帳」の増刷は行わない
- 「地域連携手帳」の現有在庫終了後、新規発行分から移行
- 新潟市には、秋葉区分も平成28年度予算に計上をお願いする
- 現行の「地域連携手帳」はそのまま継続使用可能
- 秋葉区では新潟市「むすびあい手帳」も従来の運用方法を踏襲
- 両者とも内容の変更なく、互いにページの乗り入れ可能
- ケアマネージャが説明、同意取得
- 最初に利用する介護サービス事業所から発行
- 認知症のページは必要に応じ利用する

### 医療介護における情報共有 今後の展望

- 医療・介護とのリンク: クリニカルパス、ケアパス
  - 認知症、栄養、嚥下機能
  - がん、脳卒中、心不全、大腿骨骨折
- 新潟市他地区との連携構築
  - 共通の情報共有ツール
  - 新潟市「むすびあい手帳」の活用
- IT連携
  - 新潟市医師会が推進、試行中
  - 在宅医療 IT連携: ストローハット社「Net4U」

### 新潟市医師会: IT連携の動き

- 高齢者を地域で支える: 医療と介護の連携体制が重要 (国、平成25年)
- 新潟市医療計画
  - 切れ目のない医療提供を行う在宅医療体制の構築: 地域包括ケアシステム
  - 平成26年~32年度まで
  - 地域医療再生基金、在宅医療推進事業
- 在宅医療 IT連携の整備
  - 緊急時の患者情報の共有
  - 医療・介護従事者の負担軽減
  - 全市域で患者情報の伝わる低コストで持続可能な体制の構築
- モデル事業
  - 斎藤内科クリニック(都市型)
  - 済生会第二病院(地方型)
- 平成28年3月に試行システムの評価を行う予定

### 地域連携手帳・推進ポスター